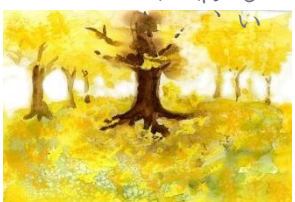


彩の歳時記

平成二十三年 十月

金色のこんじき 小きき鳥のかたちして 銀杏散るなり 夕日の岡に 与謝野晶子【1878～1942】

「天高く馬肥ゆる秋」どこまでも晴れわたる秋の夕暮れの空に、金色の鳥のような形をした銀杏の葉が夕日をうけてきらきらと輝き、岡の上に散っています。晶子句集「恋衣」所収。溢れるばかりの色彩感と映像的な美の追求は「印象派」の一枚の絵のようであり、美しい動画のようです。銀杏は、平安時代以降に中国から渡来、イチヨウ並木として親しまれ、日本各地に街路樹や庭木として植えられています。落葉高木針葉樹で「公孫樹」生きた化石と呼ばれるほど、強い生命力を持っています。花言葉は「鎮魂」



十月の異称 神無月かんなづき 神無月の「無・な」が「の」にあたる連体助詞「な」で「神の月」。

十月の暦

一日 衣替え 現在の着物(和服)の衣替えは10月1日～5月31日が袷(あわせ)、6月1日～9月31日が単衣(ひとえ)、「月1日～8月31日」が薄物(うすもの)、9月1日から30日が単衣でこの日から袷に。東京都民の日 明治三十一年のこの日、東京市が誕生、市役所が開設されたことに由来。この日は、多くの都内の施設が無料公開される。

志ん朝忌

今年没後十年を迎える江戸新家の名跡、三代目・古今亭志ん朝【1938～2001】の忌日。名門の新家の血筋・風貌、芸の確かさで、若くから落語界だけでなく、メディアや舞台等で活躍、当時の人気ぶりから神風タレントと呼ばれたことも。同業者の評価が非常に高く、父志ん生のライバル八代目桂文楽は「圓朝を襲名出来るのはこの人」と言い、毒舌で自尊心の高い七代目立川談志が「金を払って聞く価値のあるのは志ん朝だけ」と言っている。兄の金原亭馬生の娘は女優の池波志乃。現在もDVD・CD全集が売れ続けている落語家。



九日 寒露かんろ 露が冷気によって凍りそうになり、雁などの冬鳥が渡り、菊が咲き始める。

十三夜

十五夜は中国行事だが十三夜は日本独特の風習。片方だけ月見すること片見月で良くないと。秋風に たなびく雲の 絶え間よりもれ出づる月の 影のさやけさ

秋風に吹かれて横に流れる雲の切れ目から、洩れてくる月の光の、澄みきった美しさといったら！

十日 体育の日 1964(昭和39年)のこの日、アジアで初のオリンピックピックが開催されたのを記念した祝日。現在の体育の日は十月の第二日曜日。今年は無事な年。

二十日 皇后誕生日 美智子皇后は1934(昭和9年)生まれの七十七歳喜寿に。今年が高齢にもかわらず、天皇陛下と共に震災被災地を精力的に慰問された。

二十四日 霜降そうこう 露が冷気によって霜となって降り始め、楓や蔦が紅葉し始めるころ。

二十六日 原子力の日 1963年(昭和38年)のこの日、茨城県東海村の原子力

研究所で日本初の原子力 発電を行ったことから、政府が制定、原子力の理解を深めてもらおうと様々な行事を行っている。反原子力デー 原子力に反対する団体が各地で集会を行っている。

十月の歌

道化師のソネット 1980年 詞・曲 やだまわつ【1952～】

未曾有の震災から半年以上が過ぎたが、まだまだ多くの人々が大きな悲しみの中にいる。笑顔をどこかに置き去りしてしまったような月日の中で一瞬でも笑顔を取り戻すことができたなら、一篇の詞や言葉も力を持つのでしょうか。さださんは阪神大震災で弟を亡くした少年から「この曲を聴いてはじめて泣くことができ、頑張ろうという気持ちになれた」といわれ、音楽の力に自信を持つことができたと言ひ、支援コンサートで披露している。

笑ってよ君のために
笑ってよ僕のために
僕達は小さな舟に
哀しむという荷物を積んで
時の流れを下ってゆく
舟人たちのようだね
君のその小さな手にハ
持ちきれない程の哀しみを
せて笑顔が救うのなら
僕は道化師になれるよ
繰り返し 後略

